

意見交換会報告書

意見交換会の議題	フィルムコミッション事業の推進について
意見交換会の相手先 (団体名等)	大和市イベント観光協会
参加人数	15名
開催日時	平成27年10月5日(月) 午前10時30分～午後0時00分
開催場所	大和市議会 委員会室
担当議員	座長：山田 己智恵 司会者：中村 一夫 記録者：古谷田 力 出席者：金原 忠博 石田 裕 高久 良美 小倉 隆夫 菊地 弘
要点等	別紙のとおり

大和市議会議長様

平成28年4月7日

大和市議会意見交換会実施要領第8条の規定により提出します。

意見交換会座長 山田 己智恵

第4回 大和市議会意見交換会 会議録

日時：2015年10月5日（月） 午前10時30分～午後0時00分

場所：大和市議会委員会室

出席者：大和市イベント観光協会

大和市イベント観光協会事務局長フィルムコミッション事務局長

星野 俊江

大和市フィルムコミッション顧問 杉下 由輝

大和市イベント観光協会職員 井手 美枝子

大和市イベント観光協会職員フィルムコミッション担当

五條 瑠美子

文教市民経済常任委員会

委員長 座長 山田 己智恵 （公明党）

副委員長 司会 中村 一夫 （自民党・新政クラブ）

委員 書記補佐 金原 忠博 （公明党）

委員 書記補佐 石田 裕 （虹の会）

委員 書記 古谷田 力 （明るいまらい大和）

委員 高久 良美 （日本共産党）

委員 小倉 隆夫 （自民党・新政クラブ）

日程 1、あいさつ

菊地議長：議会基本条例を制定し、より開かれた議会として市民団体の方々と意見交換会を行っている。今年度の第 1 回目の意見交換会、トップバッターが「フィルムコミッション事業の推進について」である。これは大和市のブランド戦略の大きな柱でもあるので、現状から見える問題点、課題など活発な意見交換、また意見集約して頂き行政に提言して欲しい。

星野事務局長：本日はフィルムコミッションの現状をお話しさせて頂く。議員の皆様から意見、提案を頂きたいと思うので、よろしくお願ひしたい。

日程 2、自己紹介

(議員、大和市イベント観光協会の順に行う)

日程 3、意見交換

テーマ 「フィルムコミッション事業の推進について」

中村：これより山田委員長を座長として進行して頂く。

山田：今年度第 1 回目の意見交換会となる。皆様の意見を伺いなが

ら有意義な場にしていきたい。それでは、「フィルムコミッション事業の推進について」まず星野事務局長より意見を述べて欲しい。

星野：平成22年に一般公募で観光協会の事務局長に就任した際、新たな取り組みとしてフィルムコミッションによる観光推進は採用条件のひとつだった。藤沢市のフィルムコミッションを視察してみて、ロケ支援による地域活性化の有効性を実感した。23年9月に「さがみの国大和フィルムコミッション」を設立し、観光協会内に事務局を置いた。大和という地域を市内外の多くの人に知ってもらい、住んでいる人が誇りを持てるようにしたい。ドラマやCM、映画などの撮影で地域や町を使ってもらうことにより、多くのスタッフやファンが大和市を訪れ経済的に潤うようにしたい。また、地元の子も達や大人に撮影に参加してもらい、体験を共有することで、地元愛が生まれ、まちが元気になる。「フィルムコミッション」とはどういうものなのかを、顧問の杉下から説明する。

杉下：私がフィルムコミッションを最初に立ち上げたのは2000年で、藤沢市で湘南フィルムコミッションを設立し、会長として活動していた。そののち大和市、伊勢原市と立ち上げに尽力してきた。ではなぜフィルムコミッションを立ち上げるのか。

それは、映画やドラマなどは複数の撮影場所が必要であり、大和フィルムコミッションが窓口となることで撮影場所の集約化によりロケハンは助かり、撮影に協力した施設、店舗にとっては宣伝になる。また宿泊や飲食の提供で経済効果があり、シティセールス向上にも繋がる。そして撮影場所で使われたとなれば全国から世界から人が集まるようになる。有名なのがローマの休日に使われた「真実の口」でいまでも観光スポットで有名である。

冬のソナタも空前のヨン様ブームでセレブなマダムが大挙して韓国に押し寄せたのは記憶に新しいと思う。逆に中山美穂のドラマではロケ地の北海道に多くの韓国人が訪れた。このようにたった一つのドラマが経済効果を生む時代であり、一度有名になれば海外からも多くの外国人がやってくる。

それではフィルムコミッションが大和市内で撮影があった場合どのように協力したらいいのかといえば、市民住民がボランティア登録をして様々な作品に参加して頂きたい。なぜならその地域に住んでいるリアルな空気が作品に大きな影響を与えるからである。あとは場所の提供をお願いしたい。撮影によりまちの再発見、再認識ができるのではないかな。

また市原悦子さんの「家政婦は見た」シリーズでは、綺麗な街並みや建物ではなく老朽化した古い建物や団地などが必要で、ドラマの核になった。そのように老朽化したからダメではなくむしろ財産になる。まちを一方向で見るのではなく、多方向、多面的に見る必要がある。これにより行政財産や地域の財産の枠が広がる。

江ノ島で撮影された松本潤主演の「ひだまりの彼女」に出てくるお饅頭屋さんが、松潤シートで大盛況である。これまでのお客様はおじいちゃんおばあちゃんが多かったが、若い人が来るようになり世代間をつなげる役目にもなった。今まで来なかった人が来るようになる事が重要である。

- ・木村拓哉主演のエピソード
- ・北海道「ポプラの木」で日産スカイラインのケンとメリーのCM
- ・福山雅治の桜坂に使われた坂
- ・上戸彩が使った部屋の資産価値があがった話

など市のアピール、観光収入にも繋がる。フィルムコミッションは、撮影を誘致するのが目的であり、手段である。

星野：大和市では今まで5年間フィルムコミッションをやってきた。平成23年度52件、24年度60件、25年度67件、26年度75件と撮

影回数の実績を伸ばしてきた。

参加した皆さんの反応もよい。深見小学校の児童がエキストラになり、撮影する事によって地元の評価があがった。撮影用に内装工事、電気工事を行い地元にお金が落ちた。受ける撮影に差別はしないのがフィルムコミッション。街中をまわり撮影に使える物件をかなり下見して、プレゼンできるように情報を取っている。实例の3倍以上申し込みがあり、精査している。

杉下：大和市長に要望したことは、アメリカのチャイニーズシアターのように「こういう人がきたよ」とPRしていただくことで、市役所と駅前で、街頭の中で話して頂いて感謝している。藤沢では公共施設利用における「目的外使用」「使用料規定」を設けた。これにより新たな税収につながる。藤沢は目的外使用を体育館に設け1日20,000円である。映像に関する受益者負担を設けてほしい。

山田：ここから、自由な意見交換をお願いしたい。

金原：撮影依頼が来る際、大和市のフィルムコミッションにだけということになるのか。他の自治体へも話が行っているのか。

星野：製作者側は他のフィルムコミッションにも恐らく依頼している。その電話一本で決まることがあり、最初から「大和市」という

設定で、問い合わせがくるのではなく、「森が撮りたいのだが・・・」などのなんとなくの問い合わせがあり、その際にどのようにプレゼンするかが大切である。また、過去に撮影した製作者からの紹介で繋がることも数多くある。

金原：最終的な決定はそこから先になるのか。

星野：ロケハンで見に行って、さらにメインロケハンがあつて、ようやく決定する。決まらないことも日常茶飯事である。

金原：大和で撮影があつたと聞く「おとり捜査官」を観たが、撮影場所が特定できない。例えば放送日の前に公開はできないのか。

星野：市内12か所使っているが、放送前には公開はできないのが基本。撮影された地域の人にはわかると思うが、個人のお宅まで公開することはできない。

金原：撮影が終わっていても放映以後でなければだめなのか。

石田：メリットばかりなので進めていく方向でよいと思う。ただ、テレビ業界がロケハンに来てやっていたことを代行するようになり、権限を持つようになるので撮影時に使う業者が偏らないようにするなどの規約が必要ではないか。

星野：市の施設を使うことが多いので、調整が必要。日常動いてい

る中ですべてのマニュアル作成までいかないのが現状である。

例えばロケ弁については協力店のリストを作成し、色々なジャンルからメニューを選べるようにしている。

今後は使用料なども含めて、新たな規約を設けていきたい。

石田：運用面で都合がいい方に流れてしまうと思う。原点に立ち戻れる規約の存在の必要性を感じる。

古谷田：シティセールスとしてやっていきたい。イベント観光課との関わり合いはどうか。使用するにあたり市から前例がないと言われる場合はどんな時か。

星野：イベント観光課との関わりは大きい。土日や夜間の立ち合いの必要性もあるが、できる範囲で協力してもらいながら行うようにしている。爆破シーンや火事のシーンなどは断っている。学校の撮影は校庭開放等で、なかなか許可がでない。

五條：前例がないことを理由にロケバス（大型バス）を公共施設に止められなかった。引地台公園の前にスペースあったが、そこは「甲子園予選の時だけ可」とのことであった。局長が民間の駐車場を探してそこに停めてもらった。

古谷田：せっかく空いているのだから。敷地を持っている人に登録

してもらおうとかするべきではないか。土日は確かに校庭開放しており、地域の方々がスポーツで予約をして使っていることが多い。だが、鉄棒だけなど限られたスペースならば許可を出すなどの対応が必要と思う。

中村：成功しているフィルムコミッションは行政が積極的に協力していること、一所懸命なスタッフがいることだと考える。後者についてはみなさん頑張ってくれているが、任期付きの職員であり、人材を育てる必要があるのではないか。そのために何が必要か。

杉下：フィルムコミッションには人と人とのつながりが必須なので、異動のない部署に置くことが必要である。その点では大和の場合、観光協会がある。

中村：観光協会は役所ではないが、法人格もなく、責任者は市長であり、曖昧な立場である。財団法人になるなどはっきりとした立場を取っていく必要性があるのではないか。いい人材を育てていく為にも、基盤をしっかりとさせる必要があると考える。議会でも提案をし続けていく。

小倉：フィルムコミッションがない時代から、個人的に話を受けテレビ撮影など協力してきた。昨年もフィルムコミッションを通さず

に個人的に数本電話がきた。フィルムコミッションがあるのになぜかという、CM撮影などでは突発的に「子どものこのシーンを撮りたい」などの要望が生まれる。だが幼稚園などは閉鎖的、私が知っている幼稚園は「保育に支障をきたす」などを理由にほとんど断っている。市のPRにフィルムコミッションは必要と改めて思っている。ヤマトンのPR活動もイベント観光課に頑張ってもらいたい。また、大和市出身の有名人もたくさんおり、観光大使をつくることはできないのか。

星野：観光協会として考えている。ふるさと大使など、候補の著名人も数名いる。しかしこれも、誰がどう依頼するのかなどを含めまったく進んでいない状況である。また、もう一つ「他市との連携」も中々進まない。フィルムコミッションに「さがみ」と付けているのは、大和には海も山もないため、できる撮影に限界がある。ところが地域で括ることで、他市のロケーションを活用することができると考えている。綾瀬や座間もフィルムコミッションに取り掛かっており、できれば一緒に力を合わせてやっていきたい。9年続いている小田原の映画祭のように、各地連携し盛り上げていきたいと思っている。夢は沢山ある。

小倉：視察に行くと市のPRをするが、観光大使を皮切りに話すことがある。特色のない市なので、人でPRすることが必要だと考える。スポーツだと誰がいる、など一人に絞るのに問題があるのならば、複数設けるなどできないか。個人的に子ども関係ではいつでも協力するつもりだ。

山田：費用等について伺いたい。金額は交渉で決まるのか。

星野：観光協会、フィルムコミッションは1円も受け取らない。無料でやっている。例えば撮影で一軒家を3日間借りる時など、ホテルを用意して頂いたり、また一軒家を借りる際は玄関先だけでいくらなど。CMの場合は使用料が支払われている。店舗の場合は営業補償してもらおう。フィルムコミッションに利益が入り運営費になるということはない。

金原：4名で運営しているわけだが、受けられる件数の限界や目標などあるのか。

星野：あえて件数の目標は立てない。受けられる分だけ受けている。立ち会いなどを考えると、4名では月に5件程度、つまり年に60件程度が限界かと思う。一つのロケには一人がしっかりと受け持つことにしている。75件は休みも取れなく、かなり大変であった。

山田:時間となったのでここで意見交換会を終了させて頂く。貴重なご意見をありがとうございました。

以上